福剣連 居合道だより

第 058 号　平成 23 年 5 月 1 日発行
発行　（社）福岡県剣道連盟居合部
http://iai.riai.info/
発行人　迫野　康雄
〒807-0842　北九州市八幡西区永犬丸東町 3-16-13
Tel:093-612-1512
編集人　上田　武尚
〒800-0201 北九州市小倉南区上吉田 2-2-16
Tel:093-473-7323

はじめに

五輪書の中に「千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を錬とす」と言う言葉がある。これは一つの道も稽古を 3 年続けるのを「鍛」という。30 年続けるのを「錬」と武蔵は言っている。どんなことでも、そのことを 30 年以上続ければモノになる。という教訓です。

何事も「はじめる」ことはやさしいのですが、それをずっと「続ける」ことはむずかしものです。どうして、続かないのでしょうか。途中で飽きてしまう、または困難を感じて放っぽりだすこともあります。挫折の理由はいろいろです。

居合の永い修業の間でも、ある程度のところまで進むとやれやれと安心して気が緩み、苦しい困難を乗りきることが出来ずに途中挫折をした方がたくさんいる。「あの時続けていればなぁ」と良く聞く。

何事も続けることによって「成る」。大切なのは才能ではなく根気である。自分を鞭打ちながら続けるという自己支配力がポイントです。日常のささいなことでも、「やると決めたら続ける。」この続ける気力のことを根気と言うのでしょう。

「世の中のことはすべて根気しごとである。根気の強い者が最後の勝利をえる」

主な出来事

4/17　第 41 回福岡県剣道連盟武道大会　　福岡武道館

3 月 11 日に発生した東日本大震災を考慮し、『武道祭』を『武道大会』と改め　剣道、居合道、杖道及びなぎなたの剣士約 450 名が福岡武道館に集まり元気に開催された。

日本剣道形から始まり、各種の形、杖道の部、居合道の部、異種試合、剣道個人試合の部が順次実施され夕刻無事終了した。

重信流詰合を演武する
堺先生と川路先生

中和流短剣術を演武する
江藤栄子先生友子先生

居合道の演武をされる先生方

マカドレさん居合道修行

″レイホー″重んじ、現在二段

九大・大学院 フランス人留学生

糸島市前原駅南3の「居合道糸島練心館道場」で、九州大学院工学府（西区）のフランス人留学生、アルノー・マカドレさん（26）が腕を磨いている。来日して2年半で二段と上達も早いが、居合道教士八段の井手友太館長（62）は「シャイで礼儀正しい。道場では一番けいこしている」と、その姿勢にも目を細める。

マカドレさんは5年前、ボルドー大時代に居合と出会った。「空手や剣道もやったが、居合が一番〝レイホー（礼法）〟の形に沿っている。他の武道では見つけられなかった」と話す。

来日は08年2月。友人に教えられて練心館道場の門をたたいた。「日本語は全くだめ。会話は英語でした。今はメールも漢字交じりです」と、海外でも指導する井手館長。昨年8月に初段、今年8月に二段になった。

マカドレさんは大学院で金属の強度を研究している。「あと1年は日本で勉強します。就職は日本かフランスか迷っています」と話すと、井手館長は「日本で就職せい」。

魅力は「ピース」

井手館長の指導を受けるマカドレさん

けいこは礼に始まり礼に終わる。正座して深々と頭を下げる。刀を抜く。視線は前方。すり足で刀を振る。道場に空気を裂く音が響く。「居合の魅力はピースになれること。先生みたいに強くなりたい」とマカドレさん。

井手館長は「ピースとは、心の落ち着き、やすらぎを得られるということでは」と解釈している。【竹田定倫】

毎日新聞で紹介されました。
講習会・稽古会で見かけたら
気軽に声を掛け下さい。

5･6 月の予定

5/ 2(月)	第 107 回全日本剣道演武大会	京都市
5/ 3(火)	八段審査会・称号審査会	京都市
5/15(日)	居合道部理事会・総会	大濠会館
6/ 5(日)	第 44 回福岡県居合道大会	福岡武道館
6/12(日)	福岡県居合道講習会	アクシオン福岡